

ATM | 田村友一郎

2024年11月2日[土]—2025年1月26日[日]
水戸芸術館現代美術ギャラリー

開場時間 10:00~18:00(入場は17:30まで)
休館日 日曜日、年末年始(2024年12月27日[金]~2025年1月3日[金])
ただし11月4日、1月13日[月・祝]は開館、11月5日、1月14日[火]休館
入場料 一般900円、団体(20名以上)700円
高校生以下/70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料 *証明書が必要です。
●1年間有効フリーパス「年間パス」2,000円
●シニアのための特別割引デー「First Friday」:65~69歳の方は毎月第1金曜日100円 *証明書が必要です

主催 公益財団法人水戸市芸術振興財団 助成 芸術文化振興基金
技術協力 朝日新聞社メディア研究開発センター
協力 名古屋芸術大学、株式会社マツシマホールディングス、MiK Contemporary Art、サントリーホールディングス株式会社、株式会社常陽銀行、株式会社かわまた楽器店
企画 井岡悠(水戸芸術館現代美術センター主任学芸員)

田村友一郎は、これまで既存のイメージやオブジェクトを起点にした作品を手掛けてきました。写真、映像、インスタレーションからパフォーマンスや舞台まで、多彩なメディアを横断し、ある土地の持つ、固有の歴史的テーマから身近な大衆的テーマまで幅広い着想源をもとに、現実と虚構を交差させた多層的な物語を構築することで、既存の歴史や記憶へ新たな解釈を付与し、それらを現代へと接続する点が彼の作品の特徴といえるでしょう。

本展では当館英語表記「Art Tower Mito」の略称「ATM」から着想を得た新作《ATM》を発表します。来場者は、田村がこれまで書き綴った膨大なテキストを手がかりとして生成AIが創作するショートストーリーによって、田村の作品世界へと導かれます。ナレーションや語り手を伴った物語、説話、エピソードのような形態で、ナラティブな要素をもつ作品を構築してきた田村は、作品の出発点にはテキストの述作があると言います。新作《ATM》では、この述作という行為を生成AIに委ねることで、田村の過去作の断片を辿りながら新たな物語を紡ぎ出すを試みます。

【関連プログラム】
●特に記載がない限り参加費無料、どなたでもご参加いただけます。ただし、観覧会入場券が必要です。
※無料でご入場いただける方についてはチケット情報をご確認ください。
●申し込み方法は当館ウェブサイトをご覧ください。

アーティストトーク
日時 11月2日[土] 13:30~15:00
会場 会議場
定員 80名 ※申込不要/先着順

田村友一郎《テイストレス》上映
現代アーティスト・田村友一郎による初の劇場作品《テイストレス》(京都芸術劇場春秋座、2021年)の公演記録映像を当館ACM劇場にて上映します。
日時 2025年1月11日[土] 14:00~15:00
会場 ACM劇場
定員 150名 ※申込不要/先着順
構成 田村友一郎
出演 山崎皓司、荒木悠
ドラマツルク 前原拓也

赤ちゃんと一緒に美術館散歩
小さなお子さんと一緒に、気兼ねなく美術館を楽しんでいただくためのツアーです。
日時 12月5日[木] 10:30~12:00
会場 現代美術ギャラリー
対象 未就学児とその保護者
定員 5組程度 ※申込/先着順
料金 保護者のみ1,500円、入場料無料の保護者1,000円(※保護者2人目からは通常入場料)
申込期間 11月2日[土]~

託児付きギャラリーツアー(展示解説あり)
お子さんをお預かりして、大人はゆっくり観覧会を楽しむツアーです。
日時 12月8日[日] 11:00~12:00
会場 現代美術ギャラリー
定員 5組程度 ※要申込/先着順
託児対象年齢 6ヶ月以上
料金 保護者のみ1,500円、入場料無料の保護者1,000円(※保護者2人目からは通常入場料)
申込期間 11月2日[土]~

ウィークエンド・ギャラリートーク
市民ボランティアCAC ギャラリートークと対話を通してともに展覧会を鑑賞します。
日時 11月16日[土]より毎週土曜日
各日14:30~40分程度 ※申込不要。ただし、他のプログラムとの関連で中止となる場合があります。
会場 現代美術ギャラリー
料金 無料 ※ただし、観覧会入場券が必要です。

【同時開催】
クリテリウム101 渡邊拓也
若手作家と当館学芸員が共同企画する新作中心の展覧会シリーズ。行為主体としての植物と人間の関係性を探求した新作を発表します。
会期 11月2日[土]—2025年1月26日[日]
会場 現代美術ギャラリー第9室
料金 展覧会入場料に含まれます
協賛 有限会社アジアシステムサービス
企画 竹久侑(水戸芸術館現代美術センター芸術監督)

【ごいっしょに】
没後100年 中村彝展—アトリエから世界へ
11月10日[日]—2025年1月13日[月・祝]
茨城県近代美術館 Tel. 029-243-5111

田村友一郎
1977年富山県生まれ、京都府在住。日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。2013年から14年にかけてベルリン芸術大学空間実験研究所在籍。近年の個展に「Milky Mountain/裏返りの山」(Govett-Brewster Art Gallery, ニューージーランド、2019)、「叫び声/Hell Scream」(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2018)、「試論:栄光と終末、もしくはその週末/Week End」(小山市立車屋美術館、2017)、グループ展に「未完の始まり:未来のヴァンダーカンマー」(豊田市美術館、2024)、「ワールド・クラスルーム」(森美術館、2023)、「Before/After」(広島市現代美術館、2023)、「DOUBLE VISION」(大館、香港、2022)、「ギフト、ギフト、」(八戸市美術館、2021)、「ボイスオーバー」(滋賀県立美術館、2021)、「Readings from Below」(Times Art Center Berlin, ベルリン、2020)、「Participation Mystique」(明当代美術館、上海、2020)、「話しているのは誰? 現代美術に潜む文学」(国立新美術館、2019)、「わたしはどこにいる? 道標(サイン)をめぐるアートとデザイン」(富山県美術館、2019)、「The Fabric of Felicity」(Garage Museum of Contemporary Art, モスクワ、2018)、日産アートアワード2017、「Festival Future News」(ハンブルガー・バーンホフ現代美術館、ベルリン、2017)、「2 or 3 Tigers」(世界文化の家、ベルリン、2017)、「BODY/PLAY/POLITICS」(横浜美術館、2016)、「物語りのかたち」(せんだいメディアテーク、2015)、「これからの写真」(愛知県美術館、2014)、恵比寿映像祭(東京都写真美術館、2014)、「MOTアニュアル2012 風が吹けば桶屋が儲かる」(東京都現代美術館、2012)などがある。国際芸術祭「あいち2022」、ヨコハマトリエンナーレ2020、2019アジア・アート・ビエンナーレ(台湾)、釜山ビエンナーレ2018、SeMAビエンナーレ:メディアシティアソウル2014、瀬戸内国際芸術祭2013など、国内外の多数の国際芸術祭にも参加している。 田村友一郎ウェブサイト:https://damianoyurkiewich.com/

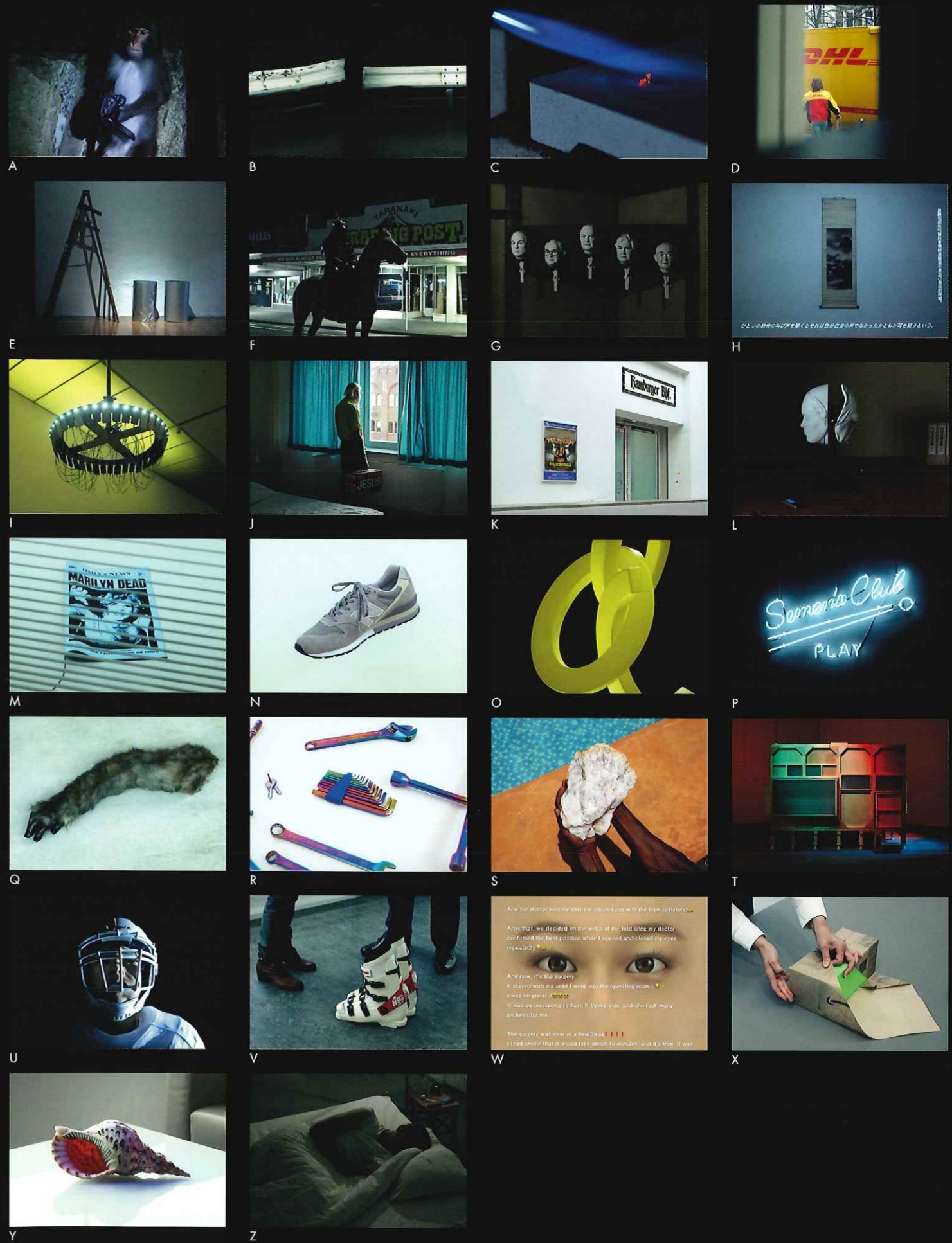
ART TOWER MITO ATM YUICHIRO TAMURA

【交通のご案内】
[JR] 東京駅(品川、上野もあり)から常磐線特急で約72-84分、水戸駅下車。北口バスターミナル47番のりばから「泉町一丁目」下車、徒歩2分。
[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」(赤塚又は茨大ルート)で約100分、「泉町一丁目」下車。徒歩2分。
[車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。地下駐車場(217台)7:00~23:00 / 立体駐車場(283台)24時間、料金:30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円、1日上限700円



水戸芸術館 ART TOWER MITO

【お問合せ】
水戸芸術館現代美術センター
〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8
Tel.029-227-8120
https://www.arttowermito.or.jp/



[A] Ars, 2017 [B] ソテロの骨折/Sotelo's break, 2015 [C] 舎密/The Story of C, 2020 [D] D.H.I., 2013 [E] 栄光と終焉、もしくはその終演/End Game, 2017 [F] 裏返りの山/Milky Mountain, 2019 [G] 見えざる手/Invisible Hands, 2022 [H] 叫び声/Hell Scream, 2018 [I] TIOS, 2024 [J] 鐘が鳴るとき、あなたは見守られる/You might be watched over while the bell rings, 2013 [K] ふたつの影/Two Shadows, 2017 [L] 耳をすませば/Listening in the Age of Mechanical Reproduction, 2016 [M] 消えた沈黙/Silence in the Mist, 2021 [N] N, 2022 [O] Sky Eyes, 2019 [P] 裏切りの海/Milky Bay, 2016 [Q] アニマルスピリット/Animal Spirits, 2022 [R] 玉蟲色の夢/Midnight Rainbow, 2017 [S] マダガスカル石/The Stone of Madagascar, 2015 [T] T氏の部屋/T's Room, 2014 [U] テイストレス/TASTELESS, 2021 [V] Kalte Füße bekommen, 2015 [W] Double Eyes, 2020 [X] 予期せぬギフト/Unexpected Gift, 2021 [Y] Y市の出来事/Y's Story, 2014 [Z] バーゼルの悪夢/Basel Nightmare, 2015